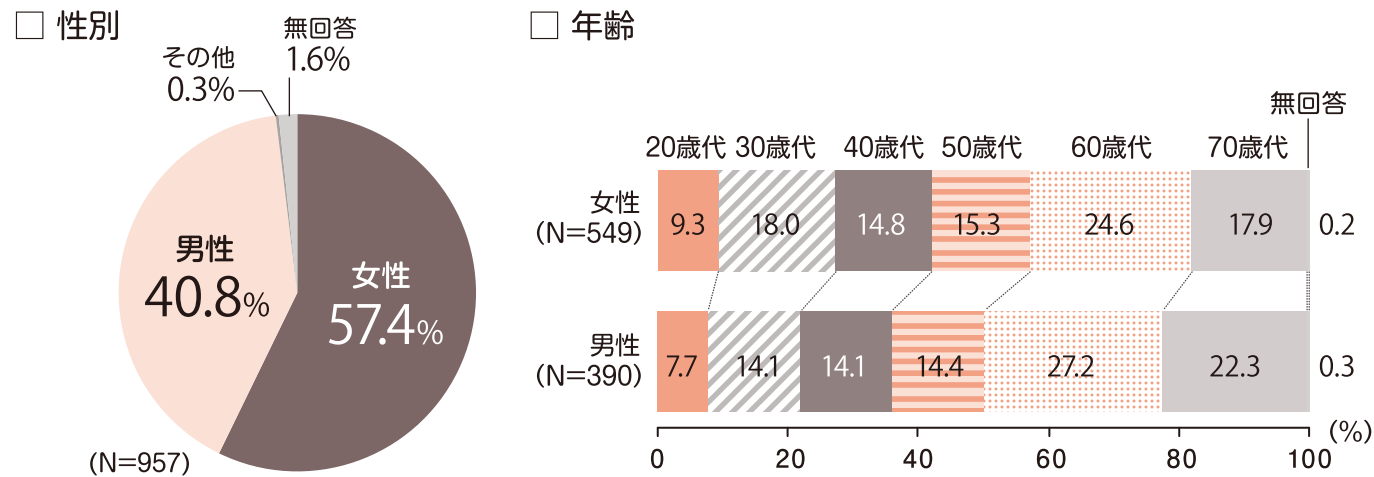


調査の概要

- 調査目的** 男女がお互いの人権を尊重し、社会のあらゆる分野の活動に参画する男女共同参画社会の実現を目指すにあたって、男女共同参画に関する高槻市民の意識の現状、傾向及び課題の把握を行い、今後の総合的かつ効果的な計画などを検討する基礎資料とします。
- 調査対象** 高槻市在住の満20歳以上の男女2,000人(平成22年10月現在)
- 調査期間** 平成22年12月13日～12月26日
- 抽出方法** 住民基本台帳および外国人登録台帳からの年齢別、男女別層化無作為抽出
- 調査方法** 郵送による配布・回収
- 調査項目**
- 1 男女平等について
 - 2 子育てや教育について
 - 3 仕事について
 - 4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について
 - 5 介護について
 - 6 男女の人権について
 - 7 男女共同参画社会の推進に向けて
・フェイスシート(回答者の属性)
- 回収の状況** 有効回収数 957件(女性549件、男性390件、その他3件、性別無回答15件)
有効回収率 48.1%



※集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがあります。
※「その他」は分析に必要なサンプル数が得られなかったため、以降の分析には反映できませんでした。

1 男女平等について

各分野における男女平等の認識

《「経済界」、「社会通念や慣習の面」の分野で不平等感が強い》

男女の地位はどの程度平等になっているかについて、『平等』(「平等になっている」「ある程度平等になっている」の計)は男女とも「学校教育」が最も高く、女性は87.0%、男性は87.7%となっています。

一方、『不平等』(「あまり平等になっていない」「平等になっていない」の計)は男女とも「経済界」が最も高く、女性は67.8%、男性は53.9%となっています。

